

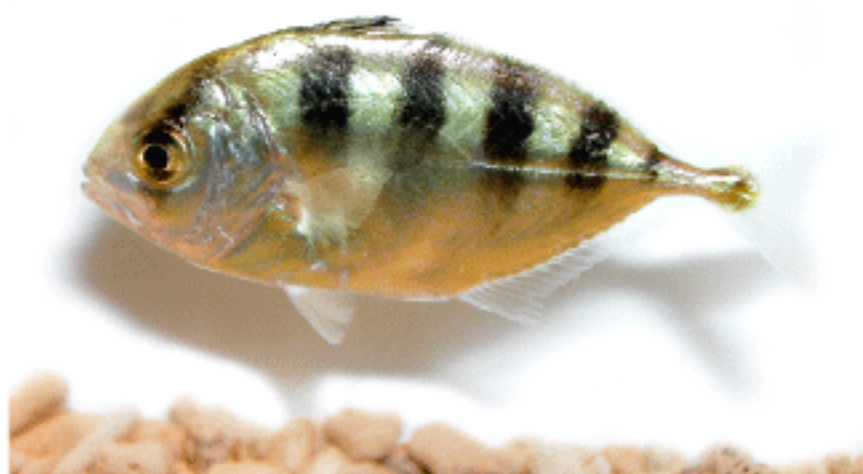
ギンガメアジの胸部は完全に鱗で覆われるのに対し、ロウニンアジでは腹鰭の直前の胸部に鱗がありません。



2004年5月18日に衣ヶ島周辺で採集された全長約5cmの幼魚。

本種の種小名は*sexfasciatus*で、ラテン語の *sex* (6), *fascia* (バンド), *-atus* (-を持つ) から成ります。この名前のように、幼魚期には体側に6本のやや太い横帯がありますが、成長するにつれて消失します。

アジの仲間の多くは「ぜいご」を持ちます。「ぜいご」は稜鱗(りょうりん)と呼ばれ、ギンガメアジには27~36枚の強い稜鱗があります。側線の前半部はゆるく湾曲しますが、後半部は直走し、この



2004年5月18日に灘で採集された全長約7cmの幼魚。

部分に稜鱗があります。成魚では第2背鰭と臀鰭の前方は鎌状になります。若い時期には主に内湾で甲殻類などを餌とし、成長します。浦戸湾では4月から6月にかけて、衣ヶ島や灘、玉島、深浦周辺で多数の幼魚が小型曳き網で採集されました。このように、内湾は沿岸性の多くの魚類にとって欠かすことができない成育場の役割を果たしているのです。

2005年4月13日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。